

まえさわ



作品が収められた盾を手にする春香さんとシール(右)

前沢区のイメージキャラクターとなる作品を募集したキャラクターシールコンテストの表彰式が3月9日、前沢観光協会総会席上で行われました。

同コンテストは前沢産を分かりやすく表現する親しみの持てるシールを作成し、区内販売店の商品に添付することで、全国にピーアールすることを目的に前沢観光協会が主催。最優秀賞に輝いた、前沢小6年菊地春香さん(12)は、「前沢のシンボルの桜と前沢牛をデザインし、前沢のみんながハッピーになれるように、ひづめがハートにもピースマークにも見えるように工夫した」と受賞の喜びを話していました。

前沢産をかわいらしくPR
前沢キャラクターシールコンテスト

まちの話題



たくさん思い出ありがとう

県立胆沢高校閉校記念式典



校旗をたたむ在原眞校長と佐藤冠太郎生徒会長

県立胆沢高校(荻原眞校長)の卒業式と閉校記念式典が6日、胆沢文化創造センターで行われました。

少子化に伴う高校再編により21年度で閉校した胆沢高校。開校から34年、創立61年の間に卒業した生徒の数は3,714人で、最盛期には3学年で400人以上が在籍したものの、閉校時は3年生17人のみとなりました。記念式典には卒業生や教職員、OBなど約200人が出席。歴代の校長やPTA会長らに感謝状が贈呈された後、会場にいる全員で校歌を合唱しました。その後、在原校長と生徒会長の佐藤冠太郎君から、県教育委員会の藤波洋香委員に校旗が返納されました。

地域に根ざした教育を目指し、環境保全や民俗芸能伝承などの活動に力を入れて活動してきた同校。生徒らが植林したブナの木は、これからもずっと胆沢の地を潤していくことでしょう。

みずさわ

感謝を込めて発車オーライ

水沢江刺駅が開業25周年

開業から25年目を迎えるJR水沢江刺駅(高橋和広駅長)は3月14日、同駅構内で記念イベントを行いました。ハンドベルの演奏や1日駅長による出発式で、4半世紀の節目を祝いました。



発車合図を行う1日駅長の鈴木さん

1日駅長を務めたのは、同駅が誕生した年に生まれた鈴木恵美さん(24)＝江刺区稲瀬＝。「修学旅行などでお世話になった」という同駅に感謝の気持ちを込めて、和菓子のプレゼントや新幹線の発車合図を行いました。同駅は、熱心な誘致活動が実って誕生した全国初の請願駅。昭和60年の開業以来、地域の主要な玄関口としてたくさんの人に利用されています。

まつりに笑顔の花を添える

江刺甚句むすめに委嘱状交付

委嘱を受けたことしの甚句むすめ



第37回江刺甚句まつりに花を添える、江刺甚句むすめの委嘱状交付式が3月16日、江刺総合支所多目的ホールで行われました。ことしの甚句むすめとして委嘱されたのは、昨年の25歳年祝連「紫粋伝」から推薦された菊池仁美さん(24)＝江刺区梁川出身＝、佐藤弥生さん(24)＝同広瀬出身＝、千田法枝さん(24)＝同藤里出身＝の3人。委嘱状を手渡した平京子江刺区長は「最高の笑顔で祭りを盛り上げて」とあいさつし、祭りでの輝きを期待していました。3人は「多くの方に甚句まつりを知っていただき、去年以上に祭りを盛り上げたい」とまつりへの抱負を話していました。

いさわ

岩手っ子集結! 夢の初公演

4広域圏の子ども合同ミュージカル

息合った県南の子もたち



県内4広域振興圏の子どもらによる夢のミュージカル「～地球発アピル星行き～僕たちの夢の船」が3月21日、文化創造センターで公演されました。

これは劇団ゆう(滝沢村)と、県北、県央、県南、沿岸の小中高生が、全5幕の1幕ずつを担当し、各地に集まって上演する新しい形のミュージカルで、奥州は3公演目。県南の子どもたち29人は、第3幕「ペルーのマチュピチュ」の舞台を担当し、古里のアピル星を救うため地球を訪れた王女とともに、秘宝を探すインカの子もたちを熱演しました。最終幕は出演者全員で演技し観客は惜しみない拍手を送っていました。

見所を現代風の手ぬぐいに

奥州・平泉歴史手ぬぐいが完成

衣川区の有志グループ「ふるさとサポート隊・森の巣」(矢崎静香代表、隊員7人)が地元の文化財をモチーフにした「こだわり手ぬぐい」を完成させ、区内小中学校などに配布しました。

地域おこしを兼ねて、外部の人に衣川・平泉の文化を広く知ってもらおうと制作に取り組んだもので、今回完成したのは、奥州・平泉歴史手ぬぐい「一首坂」シリーズと銘打った全8種類。一首坂、北館桜、12世紀の下駄、長者ケ原廃寺跡、接待館遺跡という平泉文化遺産関連遺跡などをデザインしました。計400枚(各50枚)作製し、残部は希望者に有料で頒布します。

頒布は衣川地区振興会(023426)

